

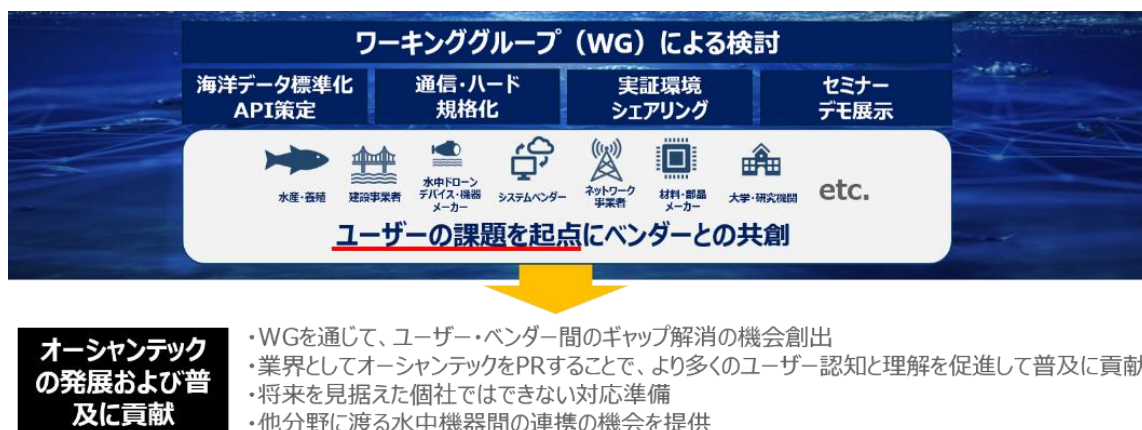
2026 年 10 月 13 日

報道関係各位

一般社団法人電子情報技術産業協会

「オーシャンテックコンソーシアム」2027 年 4 月設立へ

海洋分野のデジタル社会実装に向け、参画企業・団体の募集を開始



一般社団法人電子情報技術産業協会（JEITA：代表理事/会長 新野 隆 日本電気株式会社 取締役 会長）は、海洋分野のデジタル技術（オーシャンテック）の社会実装を産業横断で進める共創の枠組みとして、「オーシャンテックコンソーシアム」（英名：Ocean Tech Consortium、以下「本コンソーシアム」）を2027 年 4 月に設立することを発表しました。これに先立ち、本日より、参画する企業・団体の募集を開始します。

本コンソーシアムは、海洋・水産事業者、IT・エレクトロニクス企業、スタートアップ、研究機関などが業種・分野を超えて連携し、現場の課題と先端技術を結びつける共創の枠組みです。センサーやデータの活用による「海の可視化」と、漁業・養殖、設備保守などにおける「産業の自動化」を柱に、技術の実証から社会実装までを推進し、持続可能な海洋産業の発展を目指します。現在、水産事業者、IT・エレクトロニクス企業、スタートアップ、研究機関など 15 者が準備会メンバーとして参画しており、2027 年 4 月に設立総会を開催し、正式に設立・発足する予定です。

■設立の背景と目的

海洋分野は、経済安全保障や食料安全保障の観点から、その重要性が一層高まっています。政府の経済対策においても重点分野として位置づけられ、設備投資の促進や研究開発の強化が進められています。また、海洋関連産業を対象とするブルーエコノミーの市場規模は、2030年に世界で約3兆米ドル、国内で約28兆円に達すると予測されており、特に養殖や環境保全の分野が成長を牽引すると見込まれています(出典:OECD(経済協力開発機構))。さらに、TNFD(自然関連財務情報開示タスクフォース)への対応やESG投資の拡大を背景に、自然関連のリスクや機会を把握するための海洋環境データの重要性も高まっています。

一方、我が国の海洋産業は、担い手の不足や高齢化、熟練者の経験や技能に依存した業務運営など、構造的な課題を抱えています。これらの課題の解決には、先端的なデジタル技術の導入・活用が期待されるものの、現場のニーズと技術を提供する企業のシーズとの間に乖離があることや、実際の海洋環境において技術の実証・検証を重ねる機会が限られていることが、社会実装を進めるうえでの障壁となっています。

JEITAは、2018年に水中光技術等の推進を目的とする「ALAN コンソーシアム」(ALAN: Aqua Local Area Network)を設立したほか、主催する国内最大級のデジタルイノベーションの総合展「CEATEC」にて「海洋デジタル社会パビリオン」を展開するなど、海洋分野の課題や先端技術に関する情報発信に取り組んできました。こうした活動を通じ、海洋分野はDX・GXの新たなフロンティアとして期待される一方、企業ごとの取り組みが中心となっており、業種や分野を超えた連携をさらに促進する必要があるとの認識に至りました。

このような背景から、海洋・水産事業者が抱える課題を起点に、IT・エレクトロニクス企業、スタートアップ、大学・研究機関、自治体などが、それぞれの知見や技術を持ち寄り、共創を通じて課題解決を目指す枠組みとして、本コンソーシアムを設立することとしました。

本コンソーシアムでは、産業横断の連携を通じて、海洋分野におけるデジタル技術の実証と社会実装を促進するとともに、新たな事業の創出を目指し、以下の活動を推進します。

- ① 海洋産業の課題解決を起点とした先端技術の実証および社会実装の推進
- ② 会員が有する先端技術や実証フィールド等のリソース共有の促進
- ③ 海洋分野の課題、国内外の政策・制度および技術動向等に関する調査研究
- ④ 海洋分野の課題解決と事業化を牽引する次世代人材の育成
- ⑤ 関係省庁・団体等との連携による情報発信および普及啓発

これらの活動を通じて、「海の可視化」と「産業の自動化」を推進し、我が国のオーシャンテックの発展と普及に貢献してまいります。

取り組む事業

課題

我が国の海洋産業は、深刻な労働力不足や高齢化、長年の経験に依存した非効率なオペレーションといった構造的な課題に直面している。課題解決に向けて先端のデジタル技術を導入・活用する際、現場の真の課題（ニーズ）とベンダーの技術（シーズ）のミスマッチや、実際の海を用いたトライアンドエラー（実証）の場の不足が、スムーズな技術導入および社会実装への大きな障壁となっている

取り組む事業

以下の活動を通じてオーシャンテックの発展および普及に貢献する。

- ① ユーザー課題の解決を起点とする先端技術の実証及び社会実装の推進
- ② 会員が有する先端技術や実証フィールド等のリソースシェアリングの推進
- ③ 海洋分野の課題、国内外の政策・制度及び技術動向等の調査研究
- ④ 海洋分野の課題解決とビジネス実装を牽引する、次世代人材の育成
- ⑤ 関連省庁・団体等との協働による、イベント・交流等を通じた情報発信、普及啓発

■設立に向けた活動と今後の予定

本日の発表から 2027 年 4 月の正式設立までを準備期間と位置づけ、参画企業・団体の募集とワーキンググループ（WG）の活動開始に向けた準備を進めます。また、準備期間中には、海洋分野が抱える課題について理解を深めるとともに、業種や分野を超えた交流と連携を促進するため、プレイベントを開催します。

【「FUJI HACK」との共催イベント】

富士通株式会社が開発する企業横断型のクリエイティブソン「FUJI HACK®」と連携し、海洋分野の課題をテーマとしたアイデアソンを開催します。海洋産業の現場で課題を抱える事業者と、技術やアイデアを有する企業・団体などが参加し、異なる視点や知見を持ち寄ることで、新たな事業の可能性を探ります。イベントで得られたアイデアを、本コンソーシアムの WG 活動につながる具体的なユースケースへと発展させることを目指します。業種・分野を問わず、幅広い企業・団体の参加を歓迎します。

（詳細：<https://www.fujihack.com/Event-detail/pz8J-j3i>）

FUJI HACK 2026

FEAT. OCEAN TECH CONSORTIUM

2-DAY EVENT 【参加必須条件：両日を通してご参加いただける方】

DAY1

11/30

MONDAY

DAY2

12/10

THURSDAY

TIME SCHEDULE（時間は前後する可能性があります）

09:30-10:00	受付: RECEPTION
10:00-18:30	本編: MAIN SESSION
18:45-19:45	懇親会: AFTER PARTY

※ 懇親会は会員制の任意参加になります

LOCATION

新虎安田ビル
NIKAI
カンファレンス

ADDRESS

東京都港区新橋4-3-1
新虎安田ビル2階

いい海は、
いい暮らしを
つくる

海と産業がともに成長する社会

参加対象者

企業、自治体、アカデミアで
オーシャンテック関連ビジネスに携わっている方、
または関心をお持ちの方

定員

100名

参加費

無料

参加申込締切 11/16 mon.

詳細・お申し込みはこちら

応募多数の場合は抽選となります

DISCUSSION TOPICS

～3つの中から1つを選択～

1 海を活かす

2035年の水産物と私たち

2 海を守る

2035年の海を活かした未来都市

3 海をめぐる

2035年の人を育てる海のコミュニティ

CHALLENGE THE OCEAN

【今後のスケジュール】

2026 年 10 月 13 日：コンソーシアム発足発表、会員募集開始

2026 年 10 月 15 日：[CEATEC 2026 海洋デジタル社会パビリオン特別コンファレンス](#)

2026 年 11 月 30 日：「FUJI HACK」との共催イベント

2026 年 12 月 10 日：「FUJI HACK」との共催イベント

2027 年 2 月末：参画企業・団体の募集締切

2027 年 4 月：設立総会（正式設立）、役員就任、WG 活動開始

※今後の取り組みにつきましては、随時発表いたします。

【参画・入会に関するお問合せ先（企業・団体の皆様）】

オーシャンテックコンソーシアム事務局（一般社団法人電子情報技術産業協会 市場創生部）

E-mail：oceantech@jeita.or.jp

コンソーシアム概要

■名称

オーシャンテックコンソーシアム（英名：Ocean Tech Consortium）

■目的

我が国の海洋産業は、深刻な労働力不足や高齢化、長年の経験に依存した非効率なオペレーションといった構造的な課題に直面している。課題解決に向けて先端のデジタル技術を導入・活用する際、現場の真の課題（ニーズ）とベンダーの技術（シーズ）のミスマッチや、実際の海で試行錯誤（実証）を重ねられる場の不足が、円滑な技術導入および社会実装への大きな障壁となっている。本コンソーシアムでは、海洋・水産事業者、IT・エレクトロニクス企業、スタートアップ、アカデミア・研究機関、自治体等の共創と、設備・データ等のリソース共有によって「海の可視化」と「産業の自動化」を実現し、海の社会課題解決と新ビジネスの創出を目標として活動を行い、我が国のオーシャンテックの発展および普及に貢献することを目的とする。

■発足発表日／設立予定日

- ・発足発表日：2026 年 10 月 13 日
- ・設立予定日：2027 年 4 月（設立総会の開催をもって正式に設立）

■組織体制

本コンソーシアムは、事業計画等のステアリング機能を担う幹事会を設置するとともに、参加者が一堂に会する全体会議での議論を踏まえ、検討課題に応じて WG を機動的に設置し、活動を推進します。

【役員体制】

会長：

荒谷 和男 氏（株式会社 FOOD & LIFE COMPANIES 上席執行役員 商品本部担当）

副会長：

- ・山田 亜紀子 氏（富士通株式会社 富士通研究所 プリンシパルリサーチディレクター・リサーチエバンジェリスト）
- ・矮松 一磨 氏（古野電気株式会社 取締役専務執行役員 兼 CMO）
- ・山口 敬三 氏（株式会社極洋 常務取締役 兼 生鮮事業本部長）

【参加団体・企業一覧】（順不同 | 2026 年 10 月 13 日時点）

■水産事業者・商社

- ・株式会社極洋
- ・株式会社 FOOD & LIFE COMPANIES
- ・三洋貿易株式会社
- ・株式会社ワイピーテック

■IT・通信・精密デバイス

- ・富士通株式会社
- ・古野電気株式会社
- ・沖電気工業株式会社
- ・株式会社島津製作所

■調査・分析・戦略

- ・いであ株式会社
- ・アビームコンサルティング株式会社

■先端技術スタートアップ

- ・NeuralX, Inc.
- ・Noka AI
- ・株式会社ロボティクスセーリングラボ

■国立研究機関・教育

- ・国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）
- ・株式会社ポテンシャルライト

■ワーキンググループ（WG）の活動予定

本コンソーシアムでは、「価値創出と循環を生む4つの柱」として、以下の4つのWGを設置する予定です。各WGは2027年4月の正式設立後に本格的な活動を開始します。準備期間中は、参画メンバーによる活動体制の構築や活動計画の策定を進めるとともに、先行的な実証にも取り組みます。

【WG1】スマート水産WG ― 海を活かす

主査：株式会社極洋

- ・目的：「水産物の持続可能な調達」を実現する地域沿岸モデルの構築
- ・主な活動：次世代養殖システムの全体設計（ハード・ソフト・生物／飼料）とKPIの策定、代替タンパク質飼料や光技術等の実証、沈下式生け簀での養殖実証への統合、海域利用等の制度に関する政策提言

【WG2】ファシリティ・環境保全WG ― 海を守る

主査：調整中

- ・目的：洋上風力を海の観測拠点に変え、発電と漁業がともに成り立つ地域モデルの実現
- ・主な活動：発電設備・海底ケーブルの点検と異常検知の遠隔化・無人化、観測項目の共通化、海況データの漁業者への還元、藻場再生等による二酸化炭素吸収量の測定方法の検討

【WG3】データ利活用 WG ― 海を知る

主査：富士通株式会社

- ・目的：海洋データの相互連携と価値創出を推進する「海洋データエコシステム」の実現
- ・主な活動：海洋環境、水産、海洋インフラ等のデータおよび既存システム・ユースケースの調査、重点ユースケースの選定と考察

【WG4】海洋人材・普及啓発 WG ― 海でめぐる

主査：国立研究開発法人海洋研究開発機構（JAMSTEC）

- ・目的：海洋産業の担い手と応援者を増やす人材育成パイプラインと、地域と連携した社会実装の場の構築
- ・主な活動：海洋 STEAM 教育の教材開発と探究学習への展開、コンテスト・ワークショップを通じた事業化への接続、CEATEC 海洋デジタル社会パビリオンでの成果発信、自治体・地域金融と連携した活動原資と人材の呼び込み

■入会方法

本コンソーシアム Web サイトの入会申込フォームより、参加希望 WG を含む必要事項をご記入のうえ、お申し込みください。

(Web サイト：<https://www.ocean-tech-consortium.jp/>)

【参画・入会に関するお問合せ先（企業・団体の皆様）】

オーシャンテックコンソーシアム事務局（一般社団法人電子情報技術産業協会 市場創生部）

E-mail：oceantech@jeita.or.jp